

第2回第11採択地区教科用図書採択協議会 議事録

開催年月日	令和6年7月11日(木)	
開催場所	鶴ヶ島市役所 504会議室	
開催時間	13:45 ~ 16:30	
教育委員会	出席者	
坂戸市	太田 正久 教育長	小川 一信 教育長職務代理者
鶴ヶ島市	松井 克彦 教育長	石澤 良浩 教育長職務代理者
毛呂山町	高沢 佳弘 教育長	寄崎 順子 教育委員
越生町	原口 仁 教育長	青柳 高 教育長職務代理者
	事務局	
	学校教育課長	立元 亮
	指導主事	小竹 里恵子
1 開会	(司会) 鶴ヶ島市教育委員会学校教育課長 (出席者) 上記	
2 あいさつ	(司会) ただ今から、第3回第11採択地区教科用図書採択協議会を開催いたします。	
3 日程等	(会長)	
4 教科用図書 研究結果の報告 及び質疑応答	(司会) 本日の日程等について、ご説明いたします。 議長につきましては、協議会要綱第7条により会長に議長をお願いいたします。 本日の日程ですが、令和7年度使用中学校教科用図書について、専門員長より研究結果を報告していただきます。 各教科の調査結果を報告したのち、質疑、応答の時間を設定いたします。それでは、これより、議長を会長をお願いいたします。 (議長) 協議が慎重に進められ、適切な選定がなされますよう、ご協力をお願いします。 本会議については、第1回採択協議会において第2回会議は全て公開とすると決定しております。したがって、本日の会議は、非公開とすべき項目はないということで進めてまいります。 (議長) それでは、次第4「専門員の教科用図書研究結果の報告及び質疑応答について」に入ります。これから、中学校各教科の研究結果報告を行います。道徳において	

日本教科書株式会社からは調査研究用の教科書見本本が提供されなかったため、第11採択地区での調査研究は行われておりません。しかし、教科書目録には掲載されておりますので、選定の対象には含まれております。埼玉県からの調査資料には掲載されておりますので、判断の際に参考にさせていただきよう、よろしくお願い申し上げます。

(議長)

それでは、これより各教科の研究結果報告を行います。国語、書写の専門員を入室させてください。

それでは、はじめに、国語について説明をお願いします。

(専門員)

これより、国語科調査研究の結果を説明いたします。国語科では4者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「思考力・判断力・表現力を高めるための具体的な手立てについて」、「ユニバーサルデザインへの配慮について」、「その他」の3つを設定しました。

その結果につきましては、お手元の調査資料のとおりです。

それでは、「東京書籍」について、調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。はじめに【観点1】についてご説明いたします。

「てびき」にある一連の流れに対し、「言葉の力」が位置付けられ、学習のポイントが押さえられていることが良い点ですが、単元の目標が各教材の末尾に記載されているため、目標を確認するためにページをまたぐので、思考が途切れやすくなる恐れがあります。

次に、【観点2】について、主なものをご説明いたします。

教材の本文中に出てくる新出漢字だけではなく、読み間違いやすい既習の漢字等にも振り仮名がついていることが良い点ですが、言語事項において、キャラクターの会話で成り立ち興味を引く形となっている反面、文字数が増えてポイントをつかみにくくなってしまっています。

最後に【その他】についてご説明いたします。

デジタル資料が充実しており、著者インタビューが文章ごとにより、主題を捉えやすくなっています。

次に、「三省堂」について はじめに【観点1】についてご説明いたします。

「思考の方法」を手助けするチャート図が各教材で活用され、「思考の方法」と「自分の考えを深める」が関連しているので、自分の考えを深めることができる構成となっています。しかし、「話す・聞く」の内容が、「グループ」から「個人」の流れになっており、自分の考えを持てるようになってから相手に伝える、

「個人」から「グループ」の流れの方が取り組みやすいと感じました。

次に、【観点2】について、主なものをご説明いたします。

文法事項や言葉の学びの部分において、例文の字体を変えてある等、ポイントを一目見て判断しやすくなっています。また、様々な色を使うことで見分けやすく興味を引く面もありますが、視覚的刺激が他の教科書に比べやや強く、授業中の集中力低下を招く恐れがあると感じました。

最後に【その他】についてご説明いたします。

デジタルコンテンツが見やすく、文章の読み方に関する解説動画が多いので、文章を読み解く一助となっています。

次に、「教育出版」について はじめに【観点1】についてご説明いたします。

「学びナビ」が教材文の前に設定されており、既習事項・基礎知識の確認や学習活動のポイントがつかみやすく、学びの軸がぶれずに学習を進めることができます。ただ、教材文の後にある「みちしるべ」での「読み深めよう」と「自分の考えを伝え合おう」のつながりが薄く、学習してきたことに関連して考えづらいところがあります。

次に、【観点2】について、主なものをご説明いたします。

「5、10」と行数を示す数字の他に、1行ごとに「・」が示してあり、文章中の行の確認がしやすくなっている半面、脚注欄に取り上げられる語句の出現行数が示されず、本文での確認に時間がかかってしまう可能性があります。

最後に【その他】についてご説明いたします。

デジタル資料がやや少なめで、ICTを適宜活用していく際に、学びの幅を広げにくいところがあります。

次に、光村図書について はじめに、【観点1】についてご説明いたします。

「学びの扉」で、学びの見通しが記されており学習の見通しが持ちやすく、学習活動にタイトルがついているので学習のポイントも押さえやすくなっています。また、「学びのカギ」で、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の基本的な観点がまとめられており、身に付けたい資質・能力がわかりやすく書かれています。

次に、【観点2】について、主なものをご説明いたします。

説明的文章や文学的文章の分野ごとのつながりをインデックスのような形で示してあり、理解の段階や文章（作品）ごとのつながりを振り返ることができます。また、ICT活用のヒントにおいて、二次元コードについても「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域ごとに色分けし整理されているので見やすくなっています。

最後に、【その他】についてご説明いたします。

デジタル資料のバリエーションが豊富で、それぞれのQRコードに簡単な説明があり、1回1回開かなくても内容が捉えやすくなっています。
説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、学習活動に資する工夫や配慮がどのようになされていますか。

(専門員)

4者とも学習の見通しが持て、自分の考えを深められるようなページの構成となっています。また、他者との意見の交流で対話的な活動の実践を取り入れる形になっています。

(議長)

よろしいでしょうか。そのほかにご質問等はございますか。

(委員)

生徒の思考力・判断力・表現力を育成し、言語能力の確実な定着を図るための工夫や配慮がどのようになされているのでしょうか。

(専門員)

4者とも、情報を収集・整理し、わかりやすく表現するための思考ツールや表、例文などを紹介しながら、自分の力で文章を読み解き、自分の考えを述べることができるような構成となっています。

(議長)

よろしいでしょうか。そのほかにご質問等はございますか。

それでは以上で国語の質疑を終了します。

引き続き、書写について説明をお願いします。

(専門員)

次に、書写の調査研究の結果を説明いたします。書写では4者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「主体的な学びを支える構成・資料について」、「書写における基礎的・基本的な知識及び技能について」、「その他」の3つを設定しました。その結果につきましては、お手元の調査資料のとおりです。

それでは、「東京書籍」について、調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。はじめに【観点1】についてご説明いたします。

「書写のかぎ」で押さえるべきポイントがわかり、大切な言葉を太字にすることで印象に残りやすくしているのが良い点ですが、教科書のワークシートとしての活用が少なく、文字を書く練習を多く行うためには工夫が必要です。

次に、【観点2】について、主なものをご説明いたします。

「基本の点画の書き方」において、始筆や運筆を「とん・すう・すっ」等と擬態語で示されており感覚をつかみやすいのが良い点ですが、毛筆で学習した文字自体の硬筆への活用がなく、すぐに発展課題にしてしまっているため、字形についての理解が不十分になる可能性があります。

最後に【その他】についてご説明いたします。

各学年の終わりごとに「書写テスト」が設定されており、知識の確認等の振り返りがしやすくなっています。

次に、「三省堂」について はじめに【観点1】についてご説明いたします。

見やすい二次元コード一覧表があることで、自分の課題に合ったデジタルコンテンツを探しやすくなっているのが良い点ですが、毛筆の授業のページと硬筆に生かす部分とが離れてしまっているため、毛筆で学んだことを硬筆に生かしづらくなっています。

次に、【観点2】について、主なものをご説明いたします。

デジタルコンテンツの種類が明確で使うべき資料がわかりやすく、解説動画も充実しているので、実際に運筆を見ながら課題に取り組むことができます。しかし、毛筆において、朱墨を使って穂先の位置を分かるようにはしていますが、矢印等を使って示していないので、教科書だけでは筆の動きが理解しづらい面があります。

最後に【その他】についてご説明いたします。

書き込む部分が多く、教科書1冊で練習しながら内容を確認できる構成となっています。

次に、「教育出版」について はじめに【観点1】についてご説明いたします。目標の確認から学習の「振り返り」まで学習の流れがしっかりしており、○・△の「振り返り」で達成度を確認しながら取り組みやすい構成となっているのが良

い点ですが、総体的に1ページ毎の情報量が多く、生徒によっては一見したときに抵抗を感じてしまうと思われます。

次に、【観点2】について、主なものをご説明いたします。

毛筆指導において、硬筆での試し書きとまとめ書きが設定しており、毛筆を硬筆へと生かせる流れとなっています。また、毛筆において、手本に中心線を付していたり、中心線がひいていなくても黒丸を繋げば中心が捉えたりできるようになっています。

最後に【その他】についてご説明いたします。

教科書のサイズがA判でも、B判でもなく扱いやすく、机上にタブレット等とともに使用するとき場所を取り過ぎてしまいます。

次に、「光村図書」について はじめに、【観点1】についてご説明いたします。取り外しのできる別冊の「書写ブック」が付属しており、練習できるページが多く設けられ、自主的な学習や補足的な学習を行うことができます。また、各ページにあるQRコードに、「動画」「アニメーション」「他の文字にチャレンジ」等、コードが明確になっていて取り組みやすい構成となっています。

次に、【観点2】について、主なものをご説明いたします。

毛筆において、朱墨を使って穂先の動きを示すとともに、筆脈を矢印で示すことで視覚化されていて分かりやすくなっています。また、行書の導入で、楷書と並べて提示しており、見比べることで行書の特徴をとらえやすくなっています。

最後に、【その他】についてご説明いたします。

人名用漢字表が画数で記載されていることで、活用的で書字に生かしやすくなっています。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

書写と実生活との関わりについて、各者どのように工夫されていますか。

(専門員)

4者とも日常に役立つ書式の項目を設けています。手紙や新聞・レポート、中には願書の書き方等を示して、身近な部分でのつながりがわかるようになっています。

(議長)

よろしいでしょうか。そのほかにご質問等がございますか。
それでは以上で書写の質疑を終了します。
専門員の方、ありがとうございました。退出してください。

(議長)

それでは、社会について説明をお願いします。

(専門員)

これより、社会科調査研究の結果を説明いたします。社会科では教科書は、地理4者 歴史9者 公民6者 地図帳2者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、教科書につきましては、「主体的・対話的で深い学びにつながる資料の種類や提示の適切さについて」、「見方・考え方を働かせ、課題に対し、自分の言葉でまとめる学習の構成の工夫について」、「その他」の3つを設定しました。地図帳につきましては、「色合い・グラフ・国名標記などの適切な表現について」、「各分野の学習内容とのつながりについて」、「その他」の3つを設定しました。

その結果につきましては、お手元の調査資料のとおりです。

はじめに、「地理」についてご報告申し上げます。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

各地域の探求課題につながる写真や、地域の概観につながるグラフを豊富に掲載している。自分の考えをまとめ、グループ活動で対話的な活動を行うことで、深い学びにつなげるための場面設定をしています。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

導入資料から課題、活動と学習の流れがまとまっており、資料活用の活動コーナーでは、見方・考え方を働かせる視点を示しています。学習のヒントを示すことで、自分の言葉でまとめられる工夫がなされています。

最後に「その他」についてご説明いたします。

QRコードを随所に掲載し、デジタルでの学びも行えるような、多彩なコンテンツを用意しており、生徒教師が使いやすい工夫がされています。

次に、「教育出版」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

地図やグラフなどが適切な量で提示あり、統計資料も多くあり、本文と併せて活用することができる工夫がされています。また、興味関心を引き付ける資料があ

り、主体的対話的な学習につながる工夫がされています。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

導入の部分で課題を明らかにしており、学習に関連する資料が提示されています。学習の最後に「表現」のコーナーがあり、振り返りの学習として、自分の言葉でまとめる活動ができる工夫がされています。

最後に「その他」についてご説明いたします。

単元の終わりに、学習したことを振り返るページに、評価の観点を示す工夫がされています。

次に、「帝国書院」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

学習の流れをつかみやすく、主体的・対話的な学びについて取り組みやすい工夫がされています。しかし、写真資料に比べて、統計資料が少なく、データに基づく分析が行えるような工夫が必要です。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

学習の最後に説明しようというコーナーがあり、振り返りの学習として自分の言葉でまとめる活動ができる工夫がされています。各節のまとめの部分に、多面的な学びに向かえるような構成にする工夫が必要です。

最後に「その他」についてご説明いたします。

地図帳を活用した学習がスムーズに行うことができるように、「地図帳活用」の記載があり、効率的に学べるような工夫がされています。

最後に、「日本文教社」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

各小単元にQRコードがあり、読み取ることによって、その日に学んだ内容が小テスト形式で自ら確認できる工夫がされています。主体的・対話的な学びに向かうような、興味関心を引くための資料の提示の工夫が必要です。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

各章の最後に、考え方の視点を与え、対話的に深める学びに導く工夫がされています。また、学習課題が小単位ごとに明示しており、さらに詳細に学べる見方、考え方が明示しているなど工夫が見られます。

最後に「その他」についてご説明いたします。

導入部に小学校で学習した内容事項や学習の見通しを示すなどの工夫がされています。単元の終わりに、基礎基本用語をまとめるような工夫がされています。

続きまして、歴史についてご報告いたします。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

資料が学習課題の解決につながるように精選されており、本文の記述との関連性もあって、主体的に学習に取り組みやすく、「みんなでチャレンジ」等、生徒が自主的に考えを深めることができるコーナーが適切に設けられています。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

各章の章末には、見方・考え方を働かせ、探求課題の解決ができるよう、ステップチャート等多彩な思考ツールでまとめる工夫がされ「チェック&トライ」では、自分の言葉で学習活動の説明や要約ができるような工夫がされています。

最後に「その他」についてご説明いたします。

紙面はA B判で読みやすいUDフォントを使用し、ページ数も適切である。QRコードも多数掲載してあり、学びを支援しています。

次に、「教育出版」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

歴史的な資料や写真とともに、説明が加えられた地図が豊富で、当時の様子や関係国のつながりが理解しやすく、「歴史の技」では、ICTを活用した資料の提示に力を入れており、資料の提示方法や表現も豊富です。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

基本の定着と学習内容を自分の言葉で説明することで、学習を振り返ることができるようになっていきます。しかし、どの章末も同じ表現でまとめる方法のため、様々な表現でまとめる方法を章ごとに活用する等の工夫が必要です。

最後に「その他」についてご説明いたします。

紙面はA B判で読みやすいUDフォントを使用し、ページ数も適切ですが、QRコードを読み取り、学習に活用できますが、コンテンツは少ないです。

次に、「帝国書院」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

テーマを考察するのに適切な資料や対立する意見を提示し、対話を通して深い学びを実現できるようにしてあります。しかし、文化の単元では、資料は大きく、種類も豊富ですが、取り上げる資料の情報量に差が大きくなっています。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

1時間の学習の最後に「説明しよう」のコーナーを設定し、振り返りの学習として自分の言葉でまとめる活動があります。しかし、章末で振り返りを、自分の言葉でまとめさせていますが、まとめ方が画一的で工夫が必要です。

最後に「その他」についてご説明いたします。

地図とイラストによる、世界とのつながりを考えよう地図編を設置しており、日本の歴史を世界の中に位置づけて見ることができる工夫がされています。

次に、「山川出版」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

世界の歴史や現在の国際情勢との関連を意識し、多面的・多角的に考察する力の育成につながる資料提示がなされています。しかし、難易度が高いため、主体的対話的で深い学びにつながる授業の展開に結びつきにくくなっています。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

高等学校の歴史学習との接続を意識し、因果関係を重視した詳しい説明による記述がなされています。また、1時間の学習の最後に、ステップアップのコーナーを設定し、振り返りの学習として自分の言葉でまとめる活動があります。

最後に「その他」についてご説明いたします。

情報量が多く、多面的・多角的に学ぶことができますが、資料から判断し考察していくのに、精査が必要です。

次に、「日本文教出版」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

資料の種類が豊富で、理解しやすいような説明が加えられているなどの工夫がされています。また、年表と世界地図を読み取り、時代を時間軸で概観したり、世界とのつながりを空間軸で確認できる記述がある等工夫がされています。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

手がかりになる見方・考え方が示され、課題解決の取り組みが行いやすく、最後に「確認」「表現」で振り返ることができます。また、学習した時代と一つ前の時代を比較して、歩みを理解しやすい工夫がされています。

最後に「その他」についてご説明いたします。

「歴史を楽しく、深く学び、未来を考えるコラム・特設ページ」が設定されており、未来のためのヒントや様々な視点で歴史を捉える工夫がされています。

次に、「自由社」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

単元によってはコラムを設け、課題についてさらに深い学びにつながるような記述と資料を提示しています。また、地図やグラフ、文献資料のほか、補足の解説が豊富であり、歴史的事象をより多面的・多角的に捉えることができます。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

章末に時代の特徴を考えるページを設け、学習内容を自分の言葉でまとめられるようにしています。しかし、章の導入部で、単元を貫く課題が提示されておらず、学習の見通しがわかりにくく、章を大観した構成の工夫が必要です。

最後に「その他」についてご説明いたします。

コラム欄外の解説がとても充実しており、理解を深めやすくなっています。ICTを活用するためのQRコードがないので、工夫が必要です。

次に、「育鵬社」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

伝統・文化の理解につながる資料が豊富で、主体的な学びを促しています。また、写真や地図、グラフなどの資料も豊富であり、解説も資料の内容を補完するものとして、効果的になるような工夫がされています。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

つかむ、調べる、まとめる・表現するという流れで学習を深めるコーナーを設けています。しかし、章の初めに提示されている課題と学習のまとめとのつながりが見えにくく、自分の言葉でまとめる学習の構成にする工夫が必要です。

最後に「その他」についてご説明いたします。

紙面はA B判で読みやすいUDフォントを使用し、ページ数も適切ですが、QRコードでICTを活用する場面が少なくなっています。

次に、「学び舎」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

単元の導入資料が大きく、興味関心を持って、学習に取り組みやすくなっています。しかし、章の導入で、世界地図と時代のテーマを表す資料は、時代を大観しやすいが、課題が明示されず、学びが深まりにくくなっています。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

章のまとめでは、思考力を深める課題に取り組んだり、時代の特色を自分の言葉で表現できるようにしていますが、課題が時代区分のため、流れを意識しにくく、自分の言葉でまとめる学習につながりにくいので、工夫が必要です。

最後に「その他」についてご説明いたします。

情報量が多く、多面的・多角的に学ぶことができますが、資料から判断、考察していくことが難しく、工夫が必要です。

最後に、「令和書籍」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

全体的に資料の数も豊富であり、特色のある資料が掲示されています。各資料に対する説明もていねいに記載されています。しかし、主体的で対話的で深い学びに向かうような課題の提示がわかりにくく、工夫が必要です。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

小見出しごとに課題が提示されていますが、見方考え方をどのように働かせるかがわかりづらく、流れがイメージしにくく、自分の言葉でまとめる学習の構成にする工夫が必要です。

最後に「その他」についてご説明いたします。

A 5版縦書きで、小見出しは「イロハ順」になっています。ページは多めで、文字も小さく、扱いにくい印象であり、工夫が必要です。

続きまして、公民についてご報告いたします。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

学習内容への興味・関心を高める写真やグラフ、イラストなどの多彩な資料が提示されています。また、導入の学習で、探求課題と探求のステップからまとめまでの流れが示されており主体的な学びにつながりやすくなっています。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

思考ツールなどを用いて自分の考え方を整理し、単元を貫く探求課題の解決につながるように構成されています。QRコードが同じ位置に配置され、学習に取り組みやすく、自分の言葉でまとめられるような工夫がされています。

最後に「その他」についてご説明いたします。

他社と比較して、ページ数は少なめになっています。また、QRコードを多数掲載しており、主体的な学びを支援しています。

次に、「教育出版」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

資料がわかりやすく提示されていて、種類も豊富で、様々な視点から課題を探求できます。本時の学習内容を深化させた発展的な課題を設定し、思考力・判断力・表現力の育成を効果的に行い、深い学びにつなげようとしています。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

各章で見方・考え方を導入ページで紹介し、それを用いて各章の終わりに、章全体を貫く問いに対する自分の考えをまとめる課題があり、さらに学習内容を活かした発展的な課題が設定されています。

最後に「その他」についてご説明いたします。

紙面はA B判で読みやすいUDフォントを使用し、ページ数も適切です。QRコードを読み取り、学習に活用できますが、コンテンツが多くありません。

次に、「帝国書院」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

イラストや身近な事例から実感を持つことのできる資料で、現実の社会に興味を持たせ、主体的な学びを促しています。本文の記述が具体的で丁寧ですが、関連したグラフ等が小さく、読み取りにくいので提示の工夫が必要です。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

SDGsの目標と自分の住む地域の視点から振り返らせることで、自分事として捉え、自分の言葉でまとめやすい工夫をしている。各節の最後のまとめの部分において、多面的な学びに向かえるような構成にする工夫が必要です。

最後に「その他」についてご説明いたします。

「アクティブ公民」というコーナーの部分が充実しており、課題を追求するような学習に広がる工夫がされています。

次に、「日本文教出版」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

イラストを多く用いて、学習内容に興味・関心を持ちやすくする資料を提示しており、また、内容に関連した資料を基に、主体的対話的な学びにつながる活動を行うことで、思考力・判断力・表現力を高めようとしています。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

章の導入で、問いに対する疑問や答えの予想を自分の言葉で表現し、見通しが立てられるようになっており、まとめと振り返りでは、様々な思考ツールを活用し考えを深め、自分の言葉でまとめる学習になる工夫がされています。

最後に「その他」についてご説明いたします。

他者と比較して、ページ数は多めです。QRコードを多数掲載しており、主体的な学びを支援しています。

次に、「自由社」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

重要語句についてはコーナーを設けて解説しています。必要な資料を厳選して提示していますが、全体的に資料の種類は少なく、主体的対話的で深い学びにつなげるには、提示する資料は再検討する必要があります。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

各章のまとめでは、自らの言葉で思考判断表現できる課題を設けています。しかし、各章末の学習まとめと発展では、まとめは重要語句の掲載のみで、発展では課題を文字数限定でまとめるのみとなっており、構成に工夫が必要です。

最後に「その他」についてご説明いたします。

日本が直面している課題を取り上げ興味を抱かせる工夫がされています。ICTを活用するためのQRコードがないので工夫が必要です。

次に、「育鵬社」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

現代の社会事象の資料が豊富で、社会とのつながりを実感でき、多面的多角的に捉えて学ぶことができます。また、自ら調べたり、グループで話し合いや発表に取り組みせ、主体的対話的な学びを促すためのコーナーを設けています。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

章末に、社会の課題を自分事として捉えて、社会参画への態度を養えるようなコーナーが設定されています。しかし、見方考え方を働かせる設定場面が少なく、自分の言葉でまとめる力を育成するための学習の構成は工夫が必要です。

最後に「その他」についてご説明いたします。

他者と比較して、資料、索引のページが多くなっています。ICTを活用するためのQRコードの掲載はあるが、少なめです。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

社会科における、主体的で対話的で深い学びについて、どのように工夫されているでしょうか。

(専門員)

教科書によっては、二次元バーコードを読み取り、情報を集め学びにつなげるような工夫がされています。また、単元ごとに探求課題が提示されていたり、見方、考え方を養うためのコーナーを設定するなど他者と対話をしたり、自ら振り返りができるような工夫がなされています。

(議長)

よろしいでしょうか。そのほかにご質問等はございますか。
それでは以上で社会の質疑を終了します。

(議長)

引き続き、地図について説明をお願いします。

(専門員)

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

ICTを活用した資料の提示に力を入れており、資料の提示方法やその表現が工夫がされています。世界の各州において、鳥瞰図が3州しか提示されておらず、その他の州では、大観し、概略をつかむことができる工夫が必要です。

次に「観点2」についてご説明いたします。

表題にSDGs及び歴史的分野、公民的分野との関連を示す表示がされているなどの工夫がされています。歴史的分野、公民的分野と関連した資料掲載されていますが、教科書との関連がわかるような工夫が必要です。

最後に「その他」についてご説明いたします。

地図中に課題があり、その解答例がQRコードで確認することはできますが、解答例が複数のページまたがっているなどについては工夫が必要です。

次に、「帝国書院」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

土地の高低が見やすく色分けしてあり、その地域の特色を捉えやすくなるような工夫がされています。また、立体的に地形を捉えやすくするために、写真を多く取り入れ、興味・関心を引くような工夫がされています。

次に「観点2」についてご説明いたします。

その地域に関わる歴史について、年表が掲載してあり、歴史分野との関連で活用することができます。SDGsに関係する資料が豊富であり、公民分野との関連で活用できる資料も地図の中に記入されている等の工夫がされています。

最後に「その他」についてご説明いたします。

地図を見て、「読図の方法」や地図から読み取る課題が提示されていて、学びやすい工夫がされています。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

ないようですので、以上で地図の質疑を終了します。

専門員の方、ありがとうございました。退出してください。

(議長)

それでは、数学について説明をお願いします。

(専門員)

これより、数学科調査研究の結果を説明いたします。数学科では7者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「導入の工夫について」、「学習活動が充実する工夫について」、「その他」の3つを設定しました。

また、導入の工夫については、「QRコードの充実状況」「導入が日常生活などの身近な事象や興味を引く事象を扱っているか」「言語活動を促す工夫がされているか」の3点で、学習活動が充実する工夫については、「学習活動の流れを意識した工夫」「章末等の問題数」「デジタル化等の工夫」の3点で、その他については、二つの観点に含まれないがよく工夫されている点についてまとめました。

その結果につきましては、お手元の調査資料のとおりです。
それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。
はじめに「導入の工夫について」ご説明いたします。
QRコードは特に充実しており、タブレットパソコンなどを利用して動画等を活用することができます。合わせて、身近で興味を引く課題設定や、意識したキャラクターによる吹き出しが多く用意されていました。
次に、「学習活動が充実する工夫について」、主なものをご説明いたします。
利用の問題では、3学年を通して学習の流れが統一されており、生徒の学びが深まると感じました。また、問題数や内容についても工夫がみられました。
最後に「その他」についてご説明いたします。
多くの工夫が見られましたが、必ず解きたい問題に♡マークが付けられ、苦手な生徒への配慮もなされているなど、バランスも良いと感じました。
次に、「大日本図書」についてご説明いたします。
はじめに「導入の工夫について」ご説明いたします。
QRコードは少なく、この点では従来の教科書と変わらない印象です。一方、導入課題によって、生徒に単元の見通しを持たせようという意図が伝わってくるものでしたが、そこを意識した代わりに、生徒の日常等とのつながりが薄いように感じました。
次に、「学習活動が充実する工夫について」、主なものをご説明いたします。
言語活動を意識した学習展開が設定されていました。また、QRコードこそ少ないものの、デジタル教科書の充実を図っており、誰もが使いやすい教科書を目指すという基本コンセプトのもと、多言語翻訳などこれからの学習活動に必要な要素も含んでおります。
最後に「その他」についてご説明いたします。
章末や特設のページで数学が他教科や職業とつながっていることを意識して取り上げ、生徒の将来につながる工夫がなされていました。
次に、「学校図書」についてご説明いたします。
はじめに「導入の工夫について」ご説明いたします。
QRコードは少なく、この点では従来の教科書と変わらない印象です。導入課題では、生徒の興味を引く非常に良い教材が用意されているもののその割合は少ない印象です。一方、キャラクターの吹き出しにより生徒の話し合い活動が盛んになる工夫がされていました。
次に、「学習活動が充実する工夫について」、主なものをご説明いたします。
学習課題が明記されていて、課題と学習過程のつながりが経験の浅い教員にもイメージしやすいと感じました。課題量についても、意図した配置がなされてお

り、活用問題でも多様な内容が用意されています。

最後に「その他」についてご説明いたします。

1年生のページ数が素因数分解された形で表記されていたり、章の最後に言語活動の内容が用意されていたりと、他者にはない良い工夫が見られました。

次に、「教育出版」についてご説明いたします。

はじめに「導入の工夫について」ご説明いたします。

QRコードは少なく、この点では従来の教科書と変わらない印象です。しかし、既習内容を確認するページと合わせ、導入時に効果的な配置がなされていました。課題も実社会とつながる内容が多く興味を引きやすいように感じました。

次に、「学習活動が充実する工夫について」、主なものをご説明いたします。

学習のプロセスが教科書右側に記されていて、生徒にも経験の浅い教員にもイメージしやすいと感じました。課題量についても、意図した配置がなされており、使いやすいと同時に、利用問題でも数少ないQRコードが有効に配置されていると感じました。

最後に「その他」についてご説明いたします。

各章の前後で、あえて2回配置しているまとめの問題が、繰り返し学習内容を確認させる工夫であると感じました。

次に、「啓林館」についてご説明いたします。

はじめに「導入の工夫について」ご説明いたします。

QRコードは特に充実しており、タブレットパソコンなどを利用した動画やシミュレーションが用意されていました。また、身近で興味を引く課題設定や、言語活動を意識したコーナーが用意されており、バランスも良いと感じます。

次に、「学習活動が充実する工夫について」、主なものをご説明いたします。

どの問題でもステップを3つに分け段階を踏ませる工夫や、問題数も豊富で入試問題なども位置付けられていました。加えて、QRコードにより、解説動画とともに復習用課題も呼び出せ、生徒の主体的学習と家庭学習にもつながるものと感じました。

最後に「その他」についてご説明いたします。

数学と身近な問題を関連付けて扱う内容や興味を持たせるページも特設されているとともに、既習事項のまとめやQRコードによる復習なども充実しています。

次に、「数研出版」についてご説明いたします。

はじめに「導入の工夫について」ご説明いたします。

QRコードは少なく、この点では従来の教科書と変わらない印象です。

どの章でもキャラクターの対話により言語活動につなげたいという意図は伝わってきますが、全体的に知識伝達的なイメージを持ちました。

次に、「学習活動が充実する工夫について」、主なものをご説明いたします。

全国学力学習状況調査で出題された内容について、意図的にQRコードが設置されており、経験の浅い教員にとって参考になると感じました。巻末のまとめのページも充実していますし、付属のデジタルコンテンツでは補充問題が難易度別に充実しています。

最後に「その他」についてご説明いたします。

学びの自己評価のページがあり、主体的に学ぶ姿勢を意識していることを感じました。また、補充問題以外にもアプリケーション型のデジタルコンテンツが充実しており、デジタル教科書としての可能性を感じました。

次に、「日本文教出版」についてご説明いたします。

はじめに「導入の工夫について」ご説明いたします。

導入に動画やシミュレーションが有効である章を狙ってQRコードが用意されていると感じました。課題や流れにも工夫がされており、疑問や課題を活動の中で見いだすつくりになっています。

次に、「学習活動が充実する工夫について」、主なものをご説明いたします。

学習を進めるにあたり、見出しを多く設定してあることで活動自体は明確になるが、単元間や3学年を通じた見出しの統一感が薄く感じました。また、問題数も、個人のレベルに合わせられる工夫がありますが、絶対量が少ないように感じます。

最後に「その他」についてご説明いたします。

振り返りシートや対話シートなどのワークシート類が充実しており、授業準備等の時間を節約できるものと思われます。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

7者それぞれの特徴を一言で表すとどうなりますか。

(専門員)

調査の中で受けた印象としまして、東京書籍はデジタルコンテンツも紙面内容も充実しているという印象を受けています。大日本図書におきましては、シンプルで、誰もがわかりやすいという印象を受けています。学校図書におきましては、シンプルで、教材のつながりを大切にしている教科書だと感じています。教育出版におきましては、繰り返し学習することの意識が高い教科書だという印象を受

けています。啓林館におきましては、質・量ともバランスが良い教科書だと感じています。数研出版からは、他者と視点が違い、独自色を出している教科書だと感じています。日本文教出版におきましては、内容を絞り、多様な学習活動を目指している教科書だという印象を受けております。以上です。

(議長)

よろしいでしょうか。そのほかにご質問等はございますか。
それでは以上で数学の質疑を終了します。
専門員の方、ありがとうございました。退出してください。

(議長)

ここで10分間の休憩といたします。

【休憩】

《休憩》

(議長)

再開します。それでは、理科の専門員を入室させてください。

(議長)

それでは、理科について説明をお願いします。

(専門員)

これより、理科調査研究の結果を説明いたします。理科では5者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「問題解決の流れについて」、「観察・実験について」、「その他」の3つを設定しました。

その結果につきましては、お手元の調査資料のとおりです。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

疑問を解決する過程が経験の浅い教員にも分かりやすく、考察後の振り返りが生徒自身の言葉でまとめられるように工夫されていて、記述を通して思考力・判断力・表現力等の育成がしやすい既習事項が簡潔にまとめられていて、知識・技能を活用しながら問題解決に取り組むことができ、漫画やフローチャートで探究の進め方が示されているので、生徒が興味・関心をもって取り組みやすいという結果になりました。

次に「観点2」について、主なものをご説明いたします。

観察・実験の写真が鮮明で分かりやすく、QRコードから見られる動画も充実しており、生徒が具体的なイメージをもち、主体的に観察・実験に取り組みやすい構成になっている、「理科の見方・考え方」を働かせて、見通しをもって観察・実験に取り組む構成であり、指導する時期や内容に関連性を踏まえた単元配列であり、生徒の科学的な概念の形成に配慮されている、という結果になりました。最後に「その他」についてご説明いたします。

身近な事例や科学の歴史など、生徒の興味・関心が持続するように工夫されている、他教科と関連する事例や高校との系統性を意識した構成になっている、例題や章末、単元末に繰り返し学習できるように工夫されている、という結果になりました。

次に、「大日本図書」についてご説明いたします。

はじめに観点1についてご説明いたします。

既習事項とこれから学習することが示されていて、「やってみよう」という項目が多く発展的な学習に取り組みせようとするなど、学習の継続性に工夫が見られる、理科の見方・考え方の表記が分かりづらく、生徒自身で探究的な活動が難しく、指導する教員によって学習の差が大きくなることが心配される構成である、という結果になりました。

次に観点2についてご説明いたします。

複数の実験装置を示したり、実験のコツが書かれていたりするため、多様な方法で調べることができるため、いわゆる複線型の実験を通して、結果を導くことができる、疑問と観察・実験のつながりが唐突な感じがあり、結果から分かることが示されているため、生徒自身が考えたり文章にまとめたりするなど、思考力・判断力・表現力の評価には工夫が必要である、という結果になりました。

最後にその他について、ご説明いたします。

QRコードの数が少なく、ネットに頼らない構成になっている、単元末に生徒が自主的にまとめをできるように工夫されている、理科に関するコラムや豆知識など、生徒が興味を持ちやすいものが多い、という結果になりました。

次に、「学校図書」についてご説明いたします。

はじめに観点1についてご説明いたします。

図や表が大きく、日常生活と関連した写真が多く載っているので、文章から読み取るのが苦手な生徒でも、感覚的に概要をつかみながら学習を進めることができる、仮説やヒントなど、生徒に気付かせ、考えさせたいことまで書かれていることが多く、思考力・判断力・表現力等の育成が不十分となることが懸念される、という結果になりました。

次に観点2についてご説明いたします。

観察・実験の写真が鮮明で見やすく、操作上の注意点が朱書きされているので、

安全に配慮しながら観察・実験を行うことができる、観察・実験の見開きページに結果まで示されているため、生徒が考えながら問題を解決するよりも、結果を確かめたり、安易に失敗したと考えたりしてしまうことが予想される、という結果になりました。

最後にその他についてご説明いたします。

コラム「理路整然」では、科学の歴史的な発展についてふれている、ミライ教科書では6ヶ国語に翻訳されていて、様々な活用が考えられる、異なる文字の大きさが多く、小さな文字は読みづらさを感じる、という結果になりました。

次に、「教育出版」についてご説明いたします。

はじめに観点1についてご説明いたします。

疑問が具体的に示され過ぎて、仮説や計画を立てるときに生徒が気付いた疑問とならず、考察や振り返りの場面で、思考が深まりにくいと思われる、各学年で重視する考え方が強調されておらず、結論まで書かれているため、思考力・判断力・表現力等の育成に適さないと思われる、という結果になりました。

次に観点2についてご説明いたします。

観察・実験の結果の整理が具体的で書き込みができるようになっていて、巻末に器具の使い方がまとめられているので、生徒自身で進めやすい、観察・実験の手順がステップ毎に図や写真で提示され、既習事項も示されているので、身に付けた知識・技能を確認しながら進められる、という結果になりました。

最後にその他についてご説明いたします。

重要な語句が朱書きされていて、学習しやすい、科学コラム「ハローサイエンス」は日常生活と関連付けられている、用語に絞られた巻末問題があり、知識の定着に役立つ、という結果になりました。

次に、「啓林館」について、ご説明いたします。

はじめに観点1についてご説明いたします。

各学年で重視する考え方が強調されていて、小学校からの系統性を踏まえた探究的な学習に取り組みやすい構成になっている、単元配列が、旧第2分野の「地学・生物」、今は「地球・生物」が先に来ているが、多くの中学校は旧1分野の「物理・化学」、今は「エネルギー・粒子」を交互に行う年間指導計画を立てており、学年内の既習事項と指導の整合性を図りづらい、という結果になりました。

次に観点2についてご説明いたします。

観察・実験の流れが、「目的、方法、結果、考察」と明記されて分かりやすく、「探Qシート」も工夫して作られて、実験で使えるアプリもあり使いやすい、観察・実験の手順がステップに分けられ、デジタルコンテンツも充実しており、既習事項を確認し、知識・技能を活用して問題を解決するように工夫されている、

という結果になりました。

最後にその他についてご説明いたします。

デジタルコンテンツのリンク先が充実しており、生徒がタブレットを活用しやすい、日常生活や社会と関連した「お仕事ラボ」「部活ラボ」などで理科の有用性を伝えている、SDGsを意識するように、マークを付けたり国内の取組を紹介したりしている、という結果になりました。

説明は以上です。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

問題解決の過程について、各者どのような工夫がされていますか。

(専門員)

5者とも、問題解決の流れに沿って、学習できるように作られていました。中でも、東京書籍が、導入部からまとめ、振り返りまでの流れが分かりやすく、経験の浅い教員でも使いやすいと思いました。次に啓林館が科学コラムやワークシートなどが充実していて、高い評価でしたが、単元配列が他者と異なる点が問題であるという意見がありました。学校図書、教育出版は、生徒に気付かせたいことまで例示されている点が問題ととらえました。大日本図書は、発展的な課題が豊富なものの、基本的な流れがつかみづらいという意見がありました。

(議長)

よろしいでしょうか。そのほかにご質問等はございますか。

それでは以上で理科の質疑を終了します。

専門員の方、ありがとうございました。退出してください。

(議長)

それでは、音楽について説明をお願いします。

(専門員)

これより、音楽科調査研究の結果を説明いたします。

音楽科では2者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫について」、「教材性に

ついて」、「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、調査研究結果を「教育出版」と「教育芸術社」の2者について、3つの観点ごとに比較しながら、ご報告申し上げます。

まず、一般の教科書についてです。

観点の1つめ、「思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫について」を説明いたします。音楽科における「思考力・判断力・表現力等」の育成にかかる目標は、「音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする」と示されています。その際、音楽を形づくっている要素、たとえば音色、リズム、強弱などがありますが、その要素が音楽的な見方・考え方を働かせる際に大切な視点となります。

「教育出版」では「Active!」という欄があります。その教材で主に取り扱う音楽を形づくっている要素を窓口にして聴き取り、感じ取り、それらを生かして、「この曲をどのように歌っていこうか」や「新しい見方でこの曲の魅力を聴きとれる」など、思考・判断する学習ができるように工夫されています。

一方で、教材の冒頭に、学習目標や目標に迫るための学習活動は示されていますが、音楽を形づくっている要素は具体的には示されていません。そのため、生徒が学習の見通しをもつためには、授業者からの補足等が必要になると考えられます。

「教育芸術社」では、「学びのコンパスという」欄があります。その教材で主に取り扱う音楽を形づくっている要素を窓口にして聴き取り、感じ取り、それらを生かして、表現方法を工夫したり、深く音楽を味わったりする学習ができるよう工夫されています。さらに、仲間や授業者との対話を促す学習過程が示されており、自分の考えを広げたり深めたりすることができるように工夫されています。また、教材の冒頭に、学習目標や目標に迫るための学習活動、音楽を形づくっている要素に加え、考えたいポイントが問いかけの形式で示されていて、生徒が課題意識をもって学習に取り組むことができるよう工夫がされています。

次に、2つめの観点「教材性について」です。授業で中学生に何をどのように学ばせるのかという視点をもって、様々な楽曲をどのように教材化しているかという観点です。

音楽科では、「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」の4つの領域を学習します。そのうち一般の教科書には「歌唱」「創作」「鑑賞」の3つの領域の内容が掲載されています。

「歌唱」についてです。

「教育出版」「教育芸術社」ともに、1年入学当初の斉唱から混声合唱への移行、卒業時の質の高い合唱曲へと発達の段階に応じて教材が配列されています。巻末

に様々な種類の合唱曲が用意されており、生徒の実態に応じて幅広い教材の中から選択できるようになっています。

学習指導要領では、我が国で長く歌われ親しまれている歌曲のうち、「赤とんぼ」や「荒城の月」、「夏の思い出」などの7曲を歌唱共通教材とし、各学年で1曲以上取り扱うように示されています。我が国の自然や四季の美しさ、我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わい、表現することが求められています。

「教育出版」では、歌唱共通教材の学習目標が「曲の形式を生かして歌おう」に統一されています。ただし、学習を進めていくと情景を想像したり、言葉を大切にしたりしながら歌う学習も取り扱っています。「教育芸術社」では、歌曲の特徴に応じた学習目標があらかじめ設定されているので、見通しをもった学習が期待できます。

両発行者ともに、情景を想像しながら表現の工夫ができるよう、美しい風景写真が掲載されています。

「創作」についてです。

「教育出版」は、擬音語や擬態語を用いる創作、ボイスパーカッションの要素を取り入れた創作など、生徒の興味を引く教材を扱っています。

「教育芸術社」では、学習指導要領に示された創作の2つの内容を「My Melody」と「Let's Create」と明確に分けて掲載されています。創作の手順や具体的な方法が示されており生徒が主体的に取り組めるように工夫されていますが、生徒が「創作してみたい」と動機付けできるような素材の工夫がほしいところです。

続いて「鑑賞」についてです。

「教育出版」「教育芸術社」とともに、生徒が興味をもって鑑賞できる定番の教材「四季」「魔王」「ブルタバ」「運命」などに加え、我が国や諸外国の音楽についても適切に取り上げています。

「教育出版」「教育芸術社」ともに取り上げているパイプオルガンのバッハ作曲「小フーガト短調」に両発行者の特徴がみられます。

「教育出版」では、まずパイプオルガンの構造やバッハについてなど主に知識に関する学習をしたのちに音楽を聴く誌面構成になっています。更にフーガの形式についても専門的に解説しています。

「教育芸術社」では、まずパイプオルガンの音色やフーガの特徴的な音楽のつくりに触れたのちに、そのことに関する知識を学び、深く味わう学習過程になっています。

「その他」について説明いたします。生徒一人1台の情報端末が使える現在、音楽科の授業においても、生徒がよりよく表現したり、より深く味わったりするためのICT機器を活用できる準備がされていることは大切であると考えます。両発

行者ともにQRコードから様々な情報が得られるように工夫されています。

「教育出版」では、ワークシートや解説動画などのより詳細な情報が得られるように工夫されています。

「教育芸術社」では、これらの情報に加え、「歌唱」でカラピアノの音源に合わせて歌えたり、合唱の自分のパートのみを消した音源に合わせて歌えたりすることができます。「創作」でWeb上の五線譜に音符を張り付けて創作できるコンテンツが準備されているなど充実しています。

また、現行学習指導要領で求められている「音や音楽が生活や社会、文化とどのように関わり、どのような意味や価値をもつのか」ということに生徒が意識を向けることができるようなページが各発行者で工夫されています。

続いて、「器楽」の教科書です。観点については「一般」の教科書と同じです。1つめの観点、「思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫について」です。

「教育出版」の一般の教科書では目次の次に「学習Map」が掲載され、何をどのように学んでいくかが示されています。しかし、器楽の教科書にはそのページがありません。また同様に「Active!」の欄もありませんが、楽器の発音原理、いわゆる息を使う楽器、糸をはじく楽器、同士の聴き比べなど、思考・判断する学習が用意されています。

「教育芸術社」では、目次の次に学習内容のページ、「学びのコンパス」の欄など一般の教科書と同じつくりになっており、思考・判断する学習が進められるようになっています。

2つめの観点「教材性について」です。

両発行者ともに、多くの学校で取り扱うことの多い「リコーダー」「ギター」「箏」について、発達の段階の応じた曲を選択することができるようになっており、また、演奏するときに参考となる写真等も多く掲載されています。特に「教育芸術社」は、採択地区内すべての学校で取り扱っている箏に関する資料が充実しています。

これら以外の楽器は、「教育出版」では、「篠笛」「尺八」「三味線」「太鼓」と我が国の伝統的な楽器のみの扱いであり、各学校の実態に応じた指導計画が作成しづらい面があります。「教育芸術社」では、我が国の伝統的な楽器のほか、アンサンブルや創作で取り扱うことの多い打楽器についての奏法等が掲載されていて参考になります。

「教育出版」「教育芸術社」とともに、平易な曲から難易度の高い曲まで掲載されていて、生徒の実態に合わせた教材選択ができ、また個別の発展的な学習にも対応ができるようになっています。

「その他」の観点として、QRコードから得られる情報については、一般で述べ

た内容と同じです。
説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

我が国や郷土の伝統音楽のうち、埼玉県に係る内容がありますか。

(専門員)

教育出版では秩父の夜祭、屋台囃子のところが写真付きで掲載されています。教育芸術社にも、秩父夜祭のことは掲載されていますが、日本地図の中に示されているだけで、写真の掲載はありません。ただ、教育芸術社にはもう一つ久喜市の鷲宮催馬楽神楽というものが掲載されています。中学生が保存会の方と引継ぎ、伝承しているということが1ページにわたって掲載されています。

(議長)

よろしいでしょうか。そのほかにご質問等がございますか。
それでは以上で音楽の質疑を終了します。
専門員の方、ありがとうございました。退出してください。

(議長)

それでは、美術について説明をお願いします。

(専門員)

これより、美術科調査研究の結果を説明いたします。美術科では3者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、観点1として「各学習段階に対応した工夫について」、次に観点2としまして「学習を深めるためのICTの活用について」、そして「その他」を設定しました。

この2つの観点は、美術科の学習が作品を完成させることや手先の器用さといった技術の向上ではなく、学習指導要領にも示されている通り、学習過程における体験を通じた学びにあることから、「各学習過程でどのように活用できるのか」

「各学習過程を授業者がどう大切に扱えるのか」と設定した視点です。

それでは、資料に沿って、「開隆堂」について調査研究結果をご報告申し上げます。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

1文目は、「美術と社会との関わりを重視した編集の工夫」についてです。これは、全体を通じた視点になっております。

次に、「キャラクターや吹き出し台詞の活用による、親しみやすさを出す工夫」です。この難しさを感じさせない工夫は、随所にされております。最後に、技法説明の扱いですが、このように小さく羅列している点から、「生徒にはやや分かりにくい構成になっている」とさせていただきます。

次に、「観点2」について、ご説明いたします。

1文目は、「授業の一定パターンが提案されている工夫」です。導入に作品を鑑賞し、発想させ、具体例を参考に制作に進めるという流れです。2文目は「QRコンテンツの情報量・動画が少ない点」を指摘させていただきました。各再生時間は短くはないが、閲覧によって得られる情報量が少ないため、授業では活用しにくいかと考えます。

最後に「その他」についてです。

このように、「興味をひき感覚をはたらかせる凹凸の表紙」がされています。掲載している作品数としては調査資料のとおりです。

次に、「光村図書」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

1文目は、本教科書作成に当たって、光村図書が全体を通じて重視し、新しい試みをしている点です。学習指導要領の改訂が反映されており、「思考プロセスをたどれる幅広い作品の掲載、作者インタビューで中学生の語りを聞けるコンテンツ、他多様性と感動をうながす作品の選定で、発想・思考を重視している工夫」がされております。特に、作者インタビューについては、複数の題材にちりばめられており、生徒一人一人が自分のおもいやイメージを広げられる内容の新たな試みです。2文目は、「心にはたらきかけ、感動させる工夫、言語教育と造形教育の併用」です。詩や文章を扱っているだけでなく、構図や作品撮影時の陰影などにも工夫を凝らしたことで、生徒の感動が引き出せています。最後は、「技法と表現の別冊化」です。これは、3年間使用できる利便性としての利点と、学習指導要領の改訂の柱でもある「知識及び技能」を明確にできる学習の充実化としての利点がございます。

次に、「観点2」について、ご説明いたします。

1文目は、「同年代の中学生の語り・インタビュー」です。その利点は先にご説明したとおりです。2文目は、「考えを書き込めるコンテンツ活用の工夫」です。作品自体に書き込めたり、複数の種類の「思考ツール」「発想ツール」によって、考えを広げたり深めたりできるようになっています。

最後に「その他」についてです。

この巻末のQRコードには、資料に記載しました「教科横断的な生徒支援」が可

能な内容がありました。授業者がその都度、生徒の実態に応じて活用できます。掲載している作品数としては以下のとおりです。

それでは、「日本文教出版」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

1文目は、「学習の視点やヒントを明示することで、生徒が迷わないようにする工夫」です。この分かりやすさは、日本文教出版が全ての面で重視していると考えられます。2文目は、「わかりやすく丁寧な技法説明」についてです。3文目は、「学年別に3分冊にしたり、テーマ、学習の視点を焦点化したりする工夫」によって、生徒自身が自由に考えを巡らせたり試行錯誤したりする学習の不足の懸念が挙げられました。

次に、「観点2」について、ご説明いたします。

おそらく日本文教出版は3者の中で最もICT活用資料の内容研究がなされています。特に1文目に挙げた「デッサン人形アプリ」については、実際に3Dの人形を扱えて、生徒に教えるのが困難な人体の動きや構造を意識したスケッチができます。他にも、画像については多面撮影動画にしている工夫が見られました。2文目は、「ダウンロード不要アプリによる活用しやすい工夫」です。

最後に「その他」についてご説明いたします。各コンテンツの短さと活用性の工夫が特徴です。掲載している作品数としては調査資料のとおりです。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

3者について、地元埼玉県の写真はどのように使用されていますか。

(専門員)

開隆堂につきましてはございませんでした。光村図書につきましては、岩槻人形、埼玉県出身の写真作家、さいたま市芸術祭が取り上げられています。日本文教出版につきましては、埼玉県で出土した埴輪、さいたま市芸術祭が取り扱われています。

(議長)

よろしいでしょうか。そのほかにご質問等はございますか。

それでは以上で美術の質疑を終了します。
専門員の方、ありがとうございました。退出してください。

(議長)

それでは、保健体育について説明をお願いします。

(専門員)

これより、保健体育科調査研究の結果を説明いたします。保健体育科では4者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「適切かつ効果的な挿絵・図表を含めた資料について」、「学習の流れがわかりやすく、学びを深める工夫がされているかについて」、「その他」の3つを設定しました。その結果につきましては、お手元の調査資料のとおりです。

それでは、「東京書籍」について、調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

まず、学習内容に関連した写真やイラストがバランス良く配置されており、生徒の興味・関心を引き出す工夫がされていました。また、各章の章末資料は写真やグラフ、挿絵等が豊富で、学習内容をさらに深め、発展的に学ぶために有効であると思います。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

見開きごとに、「見つける・学習課題・課題の解決・広げる」となっており、授業1時間の流れや課題解決までの道筋がわかりやすいという点があります。そして、「活用する」のコーナーは、主体的・対話的な活動を通して、これまでに学んだことを活かしつつ、日常生活との関連を考えられるように工夫されていました。

最後に「その他」についてご説明いたします。

自ら主体的に学び、学んだことをさらに深められるような思考ツールとして、デジタルコンテンツが、単元に応じて用意されている点が、特徴的でありました。

次に、「大日本図書」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

まず、全てのページにおいて、左側に文章、右側に挿絵や図表が配置されており、統一感があってわかりやすい構成となっていました。そして、心肺蘇生法の手順については、見開きと折り込みページでまとめられており、写真やイラストも大きく、わかりやすくまとめられています。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

本文に続いて記載されている「他教科へのリンク」を活用すると、教科を横断的に学習することができ、様々な内容に関連づけながら学ぶことができます。

しかし、主体的・対話的に学びながら、一人一人の学びをさらに深めていけるよう、生徒が互いに係わる活動等の設定について、工夫が必要であるようです。最後に「その他」についてご説明いたします。

デジタルコンテンツの設定が少なく、各単元の学習内容に応じて活用できるツールを、さらに多く設定できるよう工夫が必要であると思います。

次に、「大修館書店」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

まず、学習内容との関連で紹介されているコラム資料は、世の中の話や生徒の興味・関心に合わせたものが多く、学習意欲の向上に効果的であると思います。また、写真や挿絵、図表が大変充実しており、生徒の興味・関心を引き出し、学ぶ意欲を高める工夫がされていました。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

「関連・他教科」というマークがあり、これによって、他の章や他教科との関連がわかりやすく、自分で調べられる工夫がされていました。しかし、課題は設定されているが、課題に即した調べ学習や、さらに深める活動の手順の提示が不足しているため、工夫が必要であるようです。

最後に「その他」についてご説明いたします。

生徒がゲーム感覚で取り組めるクイズ形式や生徒の思考を促すようなツールのデジタルコンテンツが充実しているという点が特徴的でした。

次に、「Gakken」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

まず、章末には必ず「探究しよう」というページが設けられ、日常生活との関連から考え、学びを深めていけるような資料が工夫されていました。また、リラクゼーションの対処法などの実習が、流れの中に組み込まれており、その方法等が、図を使ってわかりやすく説明されていました。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

見開きで、1時間の流れが「課題の発見・課題の解決・学びの活用」となっており、課題解決までの流れや、実生活との関連がわかりやすく、工夫されていました。また、単元ごとに、「もっと広げる深める」の資料があり、生徒の興味・関心に合わせて、学んだことをさらに深化させる工夫がされていました。

最後に「その他」についてご説明いたします。

デジタルコンテンツの数は多くありましたが、ワークシートがPDFのため、これらが、学習用端末内で操作できるようになれば、さらに、活用の幅が広がるように思われました。説明は以上でございます。

<p>【休憩】</p>	<p>(議長) ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。</p> <p>(委員) その他の観点と重なる部分がありますが、デジタルコンテンツについて、各者どのように活用しているか教えてください。</p> <p>(専門員) デジタルコンテンツにつきましては、最も多く活用しているのが大修館書店で、次いで東京書籍と学研が同程度、最も少なかったのが、大日本図書でございました。動画を視聴できたり、外部リンクで他と繋がったり、活用の仕方は各者それぞれでしたが、ワークシートが充実している東京書籍、ゲーム感覚で楽しみながら取り組めるよう工夫されている大修館書店が特徴的でありました。</p> <p>(議長) よろしいでしょうか。そのほかにご質問等はございますか。 それでは以上で保健体育の質疑を終了します。専門員の方、ありがとうございました。退出してください。</p> <p>(議長) ここで10分間の休憩といたします。</p> <p style="text-align: center;">《休憩》</p> <p>(議長) 再開します。技術・家庭の専門員を入室させてください。 それでは、技術・家庭の技術分野について説明をお願いします。</p> <p>(専門員) これより、技術・家庭科調査研究の結果を説明いたします。技術・家庭科では技術分野、家庭分野共に3者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、技術分野「技術による問題解決に取り組む学習について」「制作・育成について」「その他」の3つを設定しました。家庭分野「実践的・体験的な活動の工夫について」「思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫について」「その他」の3つでございます。その結果につきましては、お手元の調</p>
-------------	---

査資料のとおりです。

それでは、技術分野「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「観点1」について主なものを説明いたします。

各内容とも「技術の問題解決の工夫」から「問題の発見と課題の設定」を学習した後に「問題解決の評価、改善・修正」を行い、自らの学習課程を振り返られるよう工夫されております。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

各内容とも習得する必要がある技能は、実践例や「TECH Lab」にまとめられ、生徒が問題解決場面において適切な加工方法の選択と技能の習得ができるように工夫されております。

最後に「その他」について主なものをご説明いたします。

ガイダンスの中に「技術の見方、考え方」の項目に「最適化の窓」という欄を設けて、適切に技術を工夫し創造しようとする態度を養うための工夫がされております。

次に、「教育図書」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」について主なものをご説明いたします。

ガイダンスにおいて、「技術の問題解決ってなに？」という項目を設けるとともに、各内容とも問題解決の流れを4つのステップで統一した構成にして、生徒が思考しやすい工夫がされております。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

教科書と別冊「スキルアシスト」により、基本的な技能を分かりやすく身につけることができるとともに、「学習の扉」では材料と加工方法の比較・検討できるよう工夫されております。

最後に「その他」についてご説明いたします。

各内容とも1章と2章の間に安全面に配慮した項目を設け、実習や見学を安全に進められるよう工夫されております。

最後に、「開隆堂」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」について主なものをご説明いたします。

各内容とも実習例の中に問題解決の手順を示しており、生徒自身が主体的に「問題の発見や課題の設定」「構想と設計(計画)」「製作(製作、飼育)」「成果の評価と改善」の学習過程をすすめられるよう工夫されております。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

各内容の最初の見開きにおいて、「小学校や他教科とのつながり」を示し、これから学習する内容の繋がりを意識できるような工夫がされております。

最後に「その他」についてご説明いたします。

各内容とも最後の項目において、「Interview」として技術に携わる方々の仕事等を多面的に捉え、生徒の勤労観・職業観を育むことができるよう工夫されております。

技術分野の説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

各者のページ数、重さ、サイズの違いについて教えてください。

(専門員)

ページ数、重さの順でお答えします。東京書籍が305ページ、570グラム、教育図書が339ページ、668グラム、開隆堂が302ページ、568グラムです。サイズはA4変形で3者ともほとんど変わらないサイズ感です。

(議長)

よろしいでしょうか。そのほかにご質問等はございますか。

それでは、引き続き技術・家庭の家庭分野の説明をお願いします。

(専門員)

続きまして家庭分野の説明をさせていただきます。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「観点1」について主なものをご説明いたします。

ガイダンスにおいて、多岐にわたり内容が充実しているため、生徒自身が課題意識と見通しを持って学習に取り組める工夫がされております。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

選択として「生活の課題と実践」が設けられており、振り返りと自分の考えを深めることができるが、各編で取り扱う方がより効果的だと捉えることもできます。

最後に「その他」についてご説明いたします。

各編の導入部分に、「家庭分野の見方・考え方」の例が示されると共に、課題設定の欄があり、生徒自身が問題解決に生かすことができるよう工夫されております。

す。
次に「教育図書」についてご説明いたします。
はじめに「観点1」について主なものをご説明いたします。
様々な実習例が写真を中心に分かりやすい配列でレイアウトされており、生活の実態に応じた活用ができるよう工夫されております。
次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。
全体的に写真や図が豊富で、生徒の興味・関心を高める効果が見込める反面、生徒が生活の中から課題を見つけるための資料が不足しているとも捉えられます。
最後に「その他」について主なものをご説明いたします。
各内容とも問いかけが多く設けられており、生徒自身が生活の中から課題を発見できるような工夫がされております。
最後に、「開隆堂」についてご説明いたします。
はじめに「観点1」について主なものをご説明いたします。
具体的なデータや科学的根拠に基づいた資料が豊富に掲載され、生徒が実際の生活場面を容易に想定でき、思考を広げられる工夫がされております。
次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。
小題材の中に「考えてみよう・やってみよう・話し合ってみよう・発表しよう」のコーナーを設けることで、学習の流れを明確する工夫がされております。
最後に「その他」について、主なものをご説明いたします。
資料の分量と本文のバランスが良く、構成が中学生にとってわかりやすいつくりになっております。
家庭分野は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

3者それぞれについて、SDGsについてどのような工夫があるか教えてください。

(専門員)

3者とも工夫がされています。東京書籍は、欄外に生活メモを設け、適宜SDGsに関係の深い表示をするとともに、各編のまとめの部分において、持続可能な〇〇として、学習課題に設定しております。教育図書は、本文中の資料に適宜示されているとともに、消費生活、環境の部分ではより具体的に取り上げておりま

す。開隆堂は、各編のまとめの部分において、持続可能な〇〇として、やはり学習の目標に設定して、学習しやすいようになっております。

(議長)

よろしいでしょうか。そのほかにご質問等がございますか。
それでは以上で技術・家庭の質疑を終了します。
専門員の方、ありがとうございました。退出してください。

(議長)

それでは、外国語科、英語について説明をお願いします。

(専門員)

これより、外国語科調査研究の結果を説明いたします。外国語科では6者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「4技能5領域の資質・能力の育成について」、「学習内容の系統性について」、「その他」の3つを設定しました。

その結果につきましては、お手元の調査資料のとおりです。

それでは、「東京書籍 New Horizon」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「観点1、4技能5領域の資質・能力の育成について」ご説明いたします。この教科書は、学期末にあたる時期に「Stage Activity」として活動が設定されており、既習事項の統合が図れるようになっております。また、内容解説資料では、4技能がバランスよく配列されています。やや「書く」比重が多いですが、最終的な活動としてのバランスを取ろうとする工夫が見られます。

次に、「観点2、学習内容の系統性」について、ご説明いたします。

毎ページごとに設定されているYour turnやActivityでは、基本文を復習できるように工夫されています。また、Unitを通じて題材や場面の世界観の中で学習が完結するように工夫されており、その題材に関する巻末資料も充実しています。最後に「その他」についてご説明いたします。

本文中の文法は、既習事項で無理なく理解できるように統制されており、新出の言語材料と既出のものを比較して学習しやすくする工夫があります。

次に、「開隆堂 Sunshine」についてご説明いたします。

はじめに「観点1、4技能5領域の資質・能力の育成について」についてご説明いたします。この教科書は、ペアやグループで行う会話活動が多く、Review and RetellやActionで効果的に文法事項の定着を図れるようになっております。また、5つのアイコンで領域をわかりやすく表示しており、自己表現活動においては、

複数の機能・領域を合わせて行うものが配置されています。

次に、「観点2、学習内容の系統性」についてご説明いたします。

目標の確認から、文法確認、リスニング、本文読解、振り返り、自己表現活動とバランスよく進めることができます。ただ、scenesでは1つのページで複数の文法に触れるため、ページが違う本文と関連させながら進めるのが難しい部分があります。

最後に「その他」についてご説明いたします。

全体的に色鮮やかで、目を引く作りになっています。Tuning inが新たに加わり、本文で取り扱う内容を、より深く理解できるようになっています。

次に、「三省堂 New crown」についてご説明いたします。

はじめに「観点1、4技能5領域の資質・能力の育成について」について、ご説明いたします。この教科書は、それぞれの教材が1時間の授業の中で音声から文字へ、練習活動からコミュニケーション活動へと自然に移行するように活動が段階的に配列されています。また、Small Talk Plusでは「話すこと[やりとり]」に特化し、3年間を通して即興の会話を継続する方略を身に付けられるようになっています。

次に、「観点2、学習内容の系統性」について、ご説明いたします。

文法事項を知ってから、スピンオフ漫画で大切な表現を学び、関連した題材で練習をしてからGoal Activityに向かうようになっています。また、Partの初めは関連するイラストと基本文（1～2文）と一貫しており、本文の間にもイラストや写真が挟まれていることが多いため、取り組みやすい反面、会話文や説明文など、本文としてまとまった英文を読む分量が少なくなっています。

最後に「その他」についてご説明いたします。

QRコンテンツには文法解説動画があり、個別に学習することが出来るよう工夫されています。

次に、「教育出版 One World」についてご説明いたします。

はじめに「観点1、4技能5領域の資質・能力の育成について」ご説明いたします。この教科書は、Tipsとして、4技能それぞれに特化したページが割り当てられており、それぞれの技能においてその段階で身に付けさせたい能力が明記されています。また、本文の内容を活用して行うThink & Tryのコーナーがあり、speakingの練習ができるように工夫されています。

次に、「観点2、学習内容の系統性」について、ご説明いたします。

章末のTaskでは本文の場面と関連のある課題が用意されており、本文を自然に繰り返し活用する構造になっています。ただ、Check、Key Sentence、Think & TryまたはRead & Tryの流れの中の、Key Sentenceのみが場面から切り離されていて、系統性が薄くなっています。

最後に「その他」についてご説明いたします。

本文が自然な会話になるように留意されている分、文法的には未習の表現も頻出しており、1年生においても相当程度に長い本文が用意されています。

次に、「光村図書 Here we go」についてご説明いたします。

はじめに「観点1、4技能5領域の資質・能力の育成について」ご説明いたします。この教科書は、Partが左ページの本文で「聞く・読む」活動、右ページの言語活動で「聞く・話す・書く」活動と一貫しており、バランスが取れています。また、You Can Do It!ではQRコンテンツとして、全国学力学習状況調査などを参考にしたスピーキングテストの練習を行うことができますが、掲載されている回数が少ないのが残念です。

次に、「観点2、学習内容の系統性」について、ご説明いたします。

先ほど述べたようにPartは左ページが本文、右ページが言語活動という構成になっており、ストーリーと活動で使用場面や働きが一致した基本本文を繰り返し練習することができます。また、本文の量が多く、多量な英文から概要や要点を高速処理する力を養うことが期待できますが、学習者によっては支援や指導の工夫が必要となります。

最後に「その他」についてご説明いたします。

巻末のUnitのイラストを使って、Story Retellingができるようになっています。

次に、「啓林館 Blue Sky」についてご説明いたします。

はじめに「観点1、4技能5領域の資質・能力の育成について」ご説明いたします。この教科書は、コミュニケーション活動を大切にしながらも、バランスよく4技能が配分されており、英語の基礎や構造を大切に、文法の定着も図りやすくなっています。また、「聞く」ことについての活動が充実しており、Listen & Think等で「聞くこと」についての思考力や判断力を育成することができます。

次に、「観点2、学習内容の系統性」について、ご説明いたします。

観点1で述べたように、1つの文法を習った後に、4技能を順序良く活動できるよう配置されているため、スムーズに授業を展開することができます。ただ、より即興的な活動や発展的な活動につながるような会話活動の提案があるとさらに良いと思われます。

最後に「その他」についてご説明いたします。

色彩は落ち着いており、イラストも含めて穏やで、様々な生徒がいる中で、どの層にも使いやすい作りとなっています。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

英語科においては、QRコンテンツにどのようなものがありますか？

(専門員)

各教科書には單元ごとにQRコードが掲載されており、生徒の学習用タブレットやスマートフォンなどのデバイスで再生することができます。その内容や掲載数は、教科書会社によって差がありますが、どの教科書も単語や本文の音読練習、スライドやアニメーション、実写での本文理解、文法説明、リスニングやスピーキング教材など生徒の学習支援につながるものが用意されており、学習意欲や興味を引くよう様々な工夫がされています。

(議長)

よろしいでしょうか。そのほかにご質問等はございますか。

それでは以上で英語の質疑を終了します。

専門員の方、ありがとうございました。退出してください。

(議長)

それでは、道徳について説明をお願いします。

(専門員)

これより、道徳科調査研究の結果を説明いたします。道徳科では6者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしましては、【観点1】「いじめ問題や命の大切さなど人権問題を題材として取り上げる上での工夫」、【観点2】「生徒が自分事として課題意識をもって、深く考えねらいに迫れる工夫」、【観点3】「その他」の3つを設定しました。

その結果につきましては、お手元の調査資料のとおりです。

それでは、調査研究結果を3つの観点到に沿って、「東京書籍」から順にご報告申し上げます。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

まず、配慮されている点は、「各学年にユニット教材としていじめや命の尊さなど人権について複数の題材をまとめて配列し、発達段階に応じ1学期から人権について学習できるようになっている。」点です。その一方で、「身近ないじめに

関する題材は複数ありますが、他の人権問題につながる題材が少ないため、授業者が補助資料を用意するなどの工夫をする必要がありそうです。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

まず、身近な題材から「考えよう」「見つめよう」「ぐっと深める」の3段階の問いで深く掘り下げ、その後のコラム「plus」で一般化させていこうという工夫がみられます。

また、写真やイラスト、挿絵や補助資料が多用されており、題材を読み取ること以外にも自分で課題を見つけやすくする工夫があります。

最後に「その他」についてですが、教科書の巻末資料に「心情円」があり、これで毎回自分の心の中を視覚的に認識することができる工夫があります。

次に、「教育出版」についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

こちらの教科書は、初めに学校生活の人間関係やいじめなどの題材をまとめてあり、年度当初に相互理解から人間関係づくりについて実践的に学ぶ工夫があります。

また、人権問題に関わる内容が多く、学年ごとに発達段階に応じて身近なことから段階的に人権について考えることができるような構成になっています。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

生徒が自分事として深く考える工夫としては、タイトルの下に主発問があり、題材の後には「学びの道しるべ」として順を追って考えられるよう、発問が明示されています。

また、「やってみよう」のページで前に学んだことの深まりを、自分自身の体験や感想に関連させて自分事として考えやすくしているという工夫があります。

最後に「その他」についてご説明いたします。

こちらの教科書は、新しい題材と昔から使われている題材がバランスよく取り入れられています。

次に、【光村図書】についてご説明いたします。

はじめに「観点1」について、ご説明いたします。

まず、全学年で人権についてのユニットが設定され、「いじめ反対運動」「いじり」等直接的な題材を中心に人権問題についてまとめて学習できる工夫がされています。

また、各学年で大きく人権問題に関する題材を扱い、偏りなく様々な人権の観点から考えを深めることができる工夫があります。

次に「観点2」について、主なものをご説明いたします。

まず、人権問題のテーマごとに題材が集中配置されており、複数回の授業にわたり、発達段階に応じた問題点などから、生徒自身に深く考えさせるような工夫が

されています。

一方で、題材によって縦書きと横書きが入り混じっているため、UDの観点や、生徒が集中できるように、指導者の明確な指示や題材の扱いへの工夫が必要でとされます。

最後に「その他」についてご説明いたします。

巻末「学びの記録」を活用することで、授業後の振り返りを一目で見直すことができるようになっていきます。

次に、【日本文教】についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

まず、全学年でいじめや命の大切さについて複数の教材を幅広くまとめたユニットが学期ごとに配列されており、年間を通して人権問題について学べる工夫があります。

また、各学年で身近なことから世界で起きている人権問題を直接的・間接的に取り上げており、1年時から多様な人権問題について考えさせる工夫がしてあります。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

発問として題材に関する「考えてみよう」と、自分自身に問いかける「自分にプラスワン」の2つの問と、題材後の「コラム」により自分事として考えやすくなっています。

また、挿絵や追加資料が多く、生徒にとって想像しやすく興味をひきやすくなっており、状況把握が容易で、ねらいに対して自分事として考えやすいという工夫があります。

最後に【その他】についてご説明いたします。

道徳ノートが付属しており、ページの内容が、どんな題材のどのような発問にも対しても対応できるようになっています。

次に、【学研】についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてですが、

まず、最重要テーマを「いのち」とし、全学年で題材を3つ配置し、「いのち」の教育からいじめ防止や多様性について、生徒にとって考えやすい配慮がしてあります。

一方で、「いのち」を大テーマにしているため、いじめや他の人権問題を直接的に扱う題材が少なく、より考えを深めるには、指導者が工夫する必要がありそうです。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

まず、現代的問題から漫画を用いたものなど幅広く題材を扱っており、生徒にとって親しみやすく、自分事として捉えやすくなっています。

その一方で、題材後に「深めよう」「クローズアップ」と多面的・多角的に考える特設ページがありますが、逆に内容項目と離れてしまうかなという心配があります。

最後に【その他】についてご説明いたします。

挿絵や資料が多く、現代的問題から漫画を用いた題材まで生徒の興味を引く工夫をしている点が特徴となっています。

次に、【あかつき教育図書】についてご説明いたします。

はじめに「観点1」についてご説明いたします。

この教科書は、いじめ・命の大切さ、人権に関わる題材が各学期に配列されており、さらに1学期に扱う内容に、いじめに関する題材が多く、人間関係作りへの配慮を感じます。

一方で、いじめに関しては直接的な資料がありますが、人権問題については間接的な資料が多く、教師が直接的な内容を扱った補助資料を用意する必要があると思われる。

次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。

まず、重点的に考えたい4つのテーマをユニット化してあり、いじめ、情報モラル等、生徒の身近な題材が多く、生徒が自分事としてとらえやすい工夫があります。また、資料後の発問に、考える観点が明示されていて、「自分を見つめ」「考えを深め」「自分との対話」と順を追って深く狙いに迫ろうとする工夫が明確です。

最後に【その他】についてですが、教科書全体を通してシンプルですっきりとわかりやすい構成となっているのが大きな特徴です。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

付属の「道徳ノート」とありましたが、説明をお願いします。

(専門員)

付属の「道徳ノート」を使用しているのは1者のみですが、一つの題材について1ページ、どのような発問でも教師の裁量で活用できるスペースが大きく分けて二つあります。その下に自分の考えが深まったか1～4の数字で自己評価できるスペースがあり、各学年に1冊ずつ用意されています。

	<p>(議長) よろしいでしょうか。そのほかにご質問等はございますか。 それでは以上で道德の質疑を終了します。 専門員の方、ありがとうございました。退出してください。</p> <p>(議長) 以上で全ての種目の報告が終わりました。 事務局から、その他の協議事項はありますか。</p> <p>(事務局) 特にございません。</p> <p>(議長) では、以上をもちまして、議長の任を解かさせていただきます。 本日は、長時間にわたりありがとうございました。</p>
5 諸連絡	<p>(司会) 続いて、諸連絡に移ります。事務局から説明いたします。</p> <p>(事務局) 次回の第3回採択協議会は、教科用図書の選定となります。 日時は7月29日(月)、10時開会でございます。 会場は本日と同じく鶴ヶ島市役所504会議室での実施を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。 なお、埼玉県の教科書採択のガイドラインによると、採択期間中に教育委員会及び教職員は、教科書発行者と一切の接触はもたないこととされております。万が一接触を試みる教科書発行者があった場合は、事務局まで報告をお願いいたします。 もし、そのような行為が報告された場合は、ガイドライン(4)その他の②のとおり「教科書発行者による不適切な行為や公正取引委員会の警告も勘案して、教科書を採択する。」こととなりますので、よろしくお願いいたします。 連絡は以上です。</p>
6 閉会	<p>(司会) それでは、第2回第11採択地区教科用図書採択協議会を閉会します。</p>